

平成 29 年度 第 2 回 高精度測位社会プロジェクト検討会
議事要旨

1. 日時：平成 30 年 1 月 12 日（金）10：30～12：00
2. 場所：中央合同庁舎 2 号館 地下 2 階 共用会議室第 1、第 2、第 3
3. 議事
 - (1) 高精度測位社会プロジェクト 今年度取組の全体像について
 - (2) 平成 29 年度屋内外シームレス測位サービス実証実験実施内容について
 - (3) G 空間情報センターを通じた屋内電子地図等の提供に係る検討状況について
 - (4) 成田国際空港における屋内位置測位の取組について
4. 議事要旨

議事（1）（2）について

事務局より資料 2、3 の説明後、出席者より以下の発言がなされた。

<視覚障害者向け実証について>

- ・視覚障害者のナビを実施されると思うが、サービスを作る側からすると、地図を読まなくてよい、地図を見なくてよいサービスの基盤を作っていると理解している。
- ・視覚障害者向けの取り組みはこれまでも多くの検証が実施されてきており、取りまとめられているものも多いので、そういった成果も活用しながら、比較検証しまとめていくと良い。

<実証環境の継続利用について>

- ・ひとつの施設に施設管理者が複数存在しており、それぞれと調整するのはかなり大変であるという認識。施設管理者との調整について誰かが窓口となって相談できるような仕組みが必要。
- ・継続して実験を出来る環境があれば、そこで実験した結果等を各社が公表していくことがこの実証実験を進めてきた成果の一つになる。情報を共有することで、サービスを導入する際の参考になる。
- ・例えば、G 空間情報センターなどが、継続的に実験したい社を集めた場を設け、そこで話してもらい、宣伝してもらおうというような仕組みなどが考えられる。
- ・ユーザコミュニティをいかに作り、広がりを作っていくのかがとても大切だと考えており、屋内地図やビーコンなどの整備した環境の継続使用が可能であることだけでなく、ビーコンの位置や施設管理者との調整に関する相談窓口のようなものを作っていくべきと考えている。

<競技会場での屋内地図、屋内測位環境等の活用について>

- ・昨年度の日産スタジアムの実証実験では、平面の地図だけでなく、立体的な地図を作成いただいた。日産スタジアムは 4 階から 7 階まで 4 層に分かれており、売店やトイレがどこにあるのか、などは平面の地図だけではわかりづらく、立体的な情報が手軽に入手できるようになれば非常にありがたい。

- ・イベントによって公開している部分と公開していない部分に差異があり、大きな大会では全ての門を開けているが、小規模の大会では一部分は使わないということがある、このようなことがすぐにデータに反映できるような仕組みがあればありがたい。
- ・スタジアムでは、警備会社がイベント毎で異なるため、例えばある日はビーコンを使った誘導ができるが、違う日はできないといった事態が起こりうると考えており、施設管理者の方々には相互的なデータ活用ができるよう検討を進めていただければと思う。

<測位手法について>

- ・今年度のジャパンスmartナビの機能はGPSとビーコンとのことだが、今後、Wi-Fiなどについても取り組んでいただきたい。

(事務局回答)

- ・今後、ビーコンだけでなく、他の手法も組み合わせて精度をあげていくことを検討していく必要があると考えている。今年度のガイドラインについてもビーコンに限らずいくつかの測位技術についても掲載する予定。

議事(3)について

事務局より資料4の説明後、出席者より以下の発言がなされた。

<データ認証について>

- ・データ認証という言葉が使われているが、品質の担保を、データをマネジメントする企業に対して求めるようにするのか、それともデータ自身に品質を記載したラベルのようなものを貼り付けて流通を促すのか、その辺りを是非検討していただきたい。

<新宿ターミナル協議会の取組について>

- ・モデル地区の新宿駅に関して、関係者で新宿ターミナル協議会というものを設置し、様々な取り組みを進めている。今年度は案内サインの整備や、新宿駅のマップの配布を進めている。
- ・ICTを活用したサービスの向上を目指しており、屋内地図のオープンデータ化など、高精度測位社会プロジェクトの実証実験についても連携して進めていければと考えている。
- ・新宿駅の先進的な取り組みについて他の駅への展開についても進めていきたいと考えている。

<新宿駅屋内地図オープンデータの利用実績について>

- ・G空間情報センターで今回公開した新宿駅周辺の屋内地図をダウンロードした人が誰であり、どのような目的で使用されているか分析等されているか。

(事務局回答)

- ・どういった方がダウンロードしているかということは、ユーザー登録の属性から把握できる。その後どのように使われているかまで具体的には追跡できない。今後利用実績の把握方法についても検討する。

議事（４）について

成田国際空港株式会社より資料 6 について説明後、出席者より以下の発言がなされた。

<空港施設での位置情報の活用について>

- ・誰がどこにいるかという情報は、空港側も航空会社側も、空港利用者本人も知りたい情報であり、そのデータをどのように管理していくかが非常に難しいところと考えている。このようなサービスは見たことがないので、国際航空ネットワークでグローバルに広げていけるよう、是非進めていただきたい。
- ・空港の安全管理や警備などの観点から、ビーコンを設置している空港会社が、よりよい施設管理のために、航空会社と相互に情報を共有できるような仕組みが必要であるとする。

以上